

# Task-Based Language Teaching (TBLT) を用いた地域化の試み —香港での実践—

## Localizing Task-Based Language Teaching in Hong Kong

瀬尾 匡輝

香港大学專業進修学院

### 要旨

本稿は、筆者が初級コースで行っている Task-Based Language Teaching(TBLT)の実践報告である。TBLT とは日本語に訳せば、「タスクを用いた教授法」である。従来の文型積み上げ方の教授法ではなく、タスクを通して日本語を使い、学習者のプロフィシエンシーを育てるという観点から注目されている。しかし、TBLTは英語教育でも日本語教育でも理論中心に語られており、実践があまり報告されていないのが現状である。本稿では、TBLTをいかに海外の日本語教育において実践するかに重きを置いて報告する。

### キーワード:

Task-Based Language Teaching (TBLT)、地域化、プロフィシエンシー、教授法、第二言語習得理論

# Task-Based Language Teaching (TBLT) を用いた地域化の試み —香港での実践—

瀬尾 匡輝

香港大学專業進修学院

## 1 はじめに

本稿は、筆者が初級コースで行っている Task-Based Language Teaching(以下 TBLT)の実践報告である。TBLTとは日本語に訳せば、「タスクを用いた教授法」である。従来の文型積み上げ型の教授法ではなく、タスクを通して日本語を使い、学習者のプロフィシエンシーを育てるという観点から注目されている。しかし、TBLTは英語教育でも日本語教育でも理論中心に語られており、実践があまり報告されていないのが現状である。本稿では、TBLTをいかに海外の日本語教育において実践するか、に重きを置いて報告したいと思う。

まず、香港での日本語教育事情について概観した後、どうして TBLT が必要なのかを述べ、最後に筆者のクラスでの実践例を報告する。

## 2 香港における日本語教育

国際交流基金(2008)の調査によると、現在香港の日本語学習者数は 32,959 人と世界で 7 番目に学習者が多い。また、2003 年に行われた前回の同調査と比較すると約 80 パーセントも学習者が増加している。このことから香港において日本語教育が盛んに行われている現状がうかがわれる。これだけ多くの日本語学習者が存在するため、香港には日本や他の地域には見られない独特の状況が見受けられる。

まず1つ目に、成人学習者が多い。日本語学習機関を1)初等・中等教育機関(小学校、中学校、高校など)、2)高等教育機関(大学院、大学、短大、高等専門学校など)、3)学校教育以外の機関(語学学校、大学の公開講座、生涯教育機関、企業・公的機関内語学研修など)の3つに分類すると、海外の日本語学習者の6割弱が初等・中等教育機関、約2割半が高等教育機関で学習し、学校教育以外の機関の学習者は約1割半と少数である。しかしながら、香港では初等・中等教育の学習者が約1割強、高等教育が約1割半で、残りの約7割強の学習者が学校教育以外の機関で日本語を学習している(国際交流基金 2008)。

2つ目に、成人学習者はほかの教育機関に属す学習者と比べてニーズが多様である。国際交流基金(2008)の調査では教育機関別に学習目的をまとめているが、学校教育以外で学ぶ学習者の目的は、「今の仕事で必要」、「留学」、「将来の就職のため」という実利的なニーズに加えて「日本へ旅行するため」と、他の教育機関の学習者よりも多様なことがうかがえる。さらに、筆者が2009年夏に香港の生涯教育機関である香港日本語学校(仮名)の初級学習者100人に行ったアンケート調査によると「日本文化に興味があったから」、「日本のドラマ、アニメ、漫画を理解したい」など、香港に根付いている日本の大衆文化に影響を受けたと思われる動機が多く、「今の仕事に必要」「将来

日本の会社で働くため」といった自分のキャリアのための実利的なものを大きく上回っていた。同様のことは山口(2003)でも報告されている。また、上記に加え「旅行で日本へ行くため」や「日本へよく旅行する」などの旅行目的のニーズも多かった。このように香港の学習者の興味やニーズは多様である。そのため、教師は限られた時間の中で、学習者の多岐にわたる興味に応じる様々な活動をする必要がある。

### 3 Localization (地域化)

このような状況を鑑みると、学習環境や目的が著しく多様な海外/香港の日本語学習者に、日本のような Japanese as a Second Language (第二言語としての日本語、以下 JSL) 環境下で学ぶ学習者のために作られた教科書および教授法を当てはめることには無理があるのではないかと筆者は考える。英語教育の分野ではここ数年、欧米の方針や教授法、教材を各国、各地域に適した方法に変えて実践する Localization (ローカリゼーション、地域化) が叫ばれている (e.g. Canagarajah2005; Edge2006; Kumaravadivelu2005; Lin & Luke2006)。特に 1980 年代から大きな広がりをもった Communicative Language Teaching (以下 CLT) が世界中のさまざまな地域で実践されるためには、それぞれの地域に合った方法で行われることが必要だと言われている (Kumaravadivelu2006a)。Richards & Rogers (2003) は CLT はメソッドではなく、アプローチであると述べている。Mimic Memorize (真似して覚える) や Pattern Practice (ドリルを使った文型練習) などはメソッドで、決められた方法があり、定められたとおりに教師は行う必要がある。しかし、CLT などのアプローチは概念に沿っていれば、世界中でその地域に適した方法で応用することが可能である。そのため、英語教育において CLT の地域化はさまざまな国で行われてきた (e.g. ベトナム Sullivan2000; インド Ramanathan2006)。しかし、海外での多くの地域化は従来の導入・ドリルを使った文型練習の延長上にあると指摘され、プロフィシエンシーを育てるといふ観点からは批判されている (Kumaravadivelu2006b)。

日本語教育でも、佐久間(2006)が「日本における日本語教育をモデルとしてそれに近づけようと“指導”したり“協力”したりすることは単に有効だけでなく、ときには大切なものを壊すおそれさえある (p. 33)」と指摘するように、地域化のコンセプトが注目され始めている。しかし、プロフィシエンシーを育てるといふ観点から地域化を行うという例は少なく、日本で市販されている教材を使用しているのが現状である。しかしながら、これからは日本で出版された教材や日本で行われている日本語教育をそのまま海外で行うのではなく、それぞれの地域でその地域の学習者に合った日本語教育を模索していくことが必要ではないだろうか。特に香港の日本語学習者が増えた現在、香港独自の日本語教育を模索していかなければならないのではないかと考える。

#### 3.1 香港における地域化

香港でも、日本語教育の地域化が行われている。しかしながら、それらは教授法を従来そのままに、ただ地名、活動を香港のもの、その地域でよく使われるものに変えただけにとどまっている。例えば、香港の学習者のために作成された教科書がある。その中には、香港の地名や大学で使用される語彙 (例 コンピュータールーム、第 1 学期、授業料) などが多く収められている。また、2009 年には『みんなの日本語初級香港版』が出版された。日本で出版されて

いる『みんなの日本語初級本冊』では日本で生活する外国人が日本での生活に適応していけるようにトピックが形成されている。しかし、香港版では香港の日系企業に勤める陳さんと日本から香港に赴任してきた佐藤さんを中心に会話が展開されている。例えば、本冊第14課では日本に住んでいるカリナさんがタクシーの運転手に道案内をする会話が描かれているが、香港版では、高橋さんがうちまで送ってくれる陳さんに道案内をするように変えられている。ほかにも本冊第17課では、松本さんが病院に行くという場面が香港版では風邪をひいた陳さんが山田さんに相談するというように場面が変更されている。さらに、教科書の文型練習でも日本の地名(例 甲子園→女人街 第5課)や日本独特の文化要素(例 パチンコ→花見 第19課)が香港の地名や香港で行われる活動に変更されている。香港版の編集チームが「場面設定を香港におけば、さらに臨場感あふれる生き生きとした練習ができるのではないか(みんなの日本語初級香港版:ii)」と言うように、この教科書を使うことによって、教室外で日本語に触れることが難しい Japanese as a Foreign Language (JFL) 環境でも学習者は日本語を身近なものとして捉えることができると考えられる。

しかし、地名や会話の内容を変えただけで果たして地域化が行われたと言えるのであろうか。『みんなの日本語初級』は直説法を用いた『文型』積み上げ方式(教え方の手引き:14)である。まず、『練習A』で代入ドリルや変換ドリルで新しい文型を導入・説明し、「練習B」で Audio-Lingual Method の pattern practice (文型練習)を行い、「練習C」でその課で習った文型をさまざまな場面で使えるように産出させるという Presentation, Practice, Production (提示、練習、産出、以下 PPP) をモデルにしている。このモデルは「短期間で計画的に日本語の総括的理解と実践的会話力を養成するためには文型練習(pattern practice)は有効かつ強力な教授方法の一つである(教え方の手引き:14)」と『みんなの日本語初級』の執筆者が言っている。確かに日本で生活、就業、勉強している学習者には日本語を短期間で習得する必要があるかもしれないが、果たして香港でも同様に短期間で習得する必要があるのだろうか。

また、PPP モデルは SLA の観点からも批判にさらされている。Tomlinson (1998: xii) は、「PPP アプローチは体系的・効率的に見えるが、SLA 研究から見ると、ある項目を学習するにはこのアプローチが示唆するよりも、より長い時間と、コミュニケーションで使用するより多くの経験が必要だ」と述べている。さらに、言語形式に注意が行くと、意味を処理することができず、形式と意味を結びつけることができないことも指摘されている (VanPatten 1990)。日本語教育においても小柳(1998)が教室指導しても効果に持続性がないことや、流暢さが身につかないということを問題視している。日本語が教室外でも使用されている JSL 環境では、教室外で日本語を使う機会があり、流暢さも持続性も効果的に習得できるのかもしれないが、教室内でしか日本語を使わない JFL 環境においては教室内でいかに効果的に流暢さを身につけるかが大切になる。

#### 4 Task-Based Language Teaching (TBLT)

そこで、流暢さを効果的に身につけるには、教室内で積極的にプロフィシエンシーを育てる活動が必要になってくる。教室内で新しい文型を学び、ひたすら機械的な文型練習を行うのではなく、新しく言葉を習い日本語で何かができるようになったという方法に変える必要がある。つまり、授業で新しい文型を学んだということで終わらせるのでは

なく、日本語を使い何かができるようになったという具体的な成果を授業が終わったときに学習者に持たせることが大切なのではないだろうか。そうすれば、学習者は実際に日本へ旅行に行った時に日本語が使える、香港の日系企業で日本人の同僚と会話ができる、インターネットで知り合った日本人とお互いの興味について話すことができるといった達成感を得ることができる。そのことが、学習者の興味を促進し、日本語学習を続ける動機になるのではないだろうか。そのために、本稿では筆者が行った Task-Based Language Teaching(TBLT)を紹介したいと思う。

タスクと聞くと PPP アプローチの最後の P(産出)と何が異なるのかという意見もできるかもしれないが、TBLT と PPP とではタスクの位置づけが違う。PPP では、タスクは場面を提示することでその課で学んだ文型の練習を行う。しかしながら、小山(2008)が指摘するように、学習者はその課の文型を使えばいいということを理解しているのだから実際にコミュニケーションをしているとは言えず、文型練習をしていることと変わらない。一方、TBLT でいうタスクとは「自分、または他人のために、もしくは自由意志で、またはある報酬のために行われる仕事のこと(Long1985:89、小柳2004 訳)」とし、ペンキを塗る、靴を買うなど人々が日常している活動のことを指している。つまり、教室ではタスクを通して日本語を産出するのではなく、タスクを遂行するために日本語を使う。日本語を実際の活動の中で使用しながら日本語を学習するのである。ここまででは CLT にみられるタスクと似ているように感じる。だが、CLT は社会言語学の観点から議論されてきたのに対して、TBLT は第二言語習得研究の視点から派生している。そのため、TBLT では Communicative Competence などの社会言語学の理論と第二言語習得研究の二方向から注目されている。

日本語教育で TBLT を実践・研究している小柳(2004)は Gass & Selinker (2001)に基づき、言語習得のプロセスを「インプット→気づき→理解→インテイク→統合→アウトプット」という順に進むとまとめている。言語習得のために必要なのは、まず学習課題に「気づく」ことである。そして、気づいた学習課題について意味を「理解」し、ペアとのインターアクションを通して理解した内容が正しいかどうか検証する「インテイク」の過程があり、その中で正しいと認識されたものだけが「統合」される。学習者はここまでのプロセスを通して、統合し、自然にアウトプットできるようになると考えられている。TBLT では言語習得のプロセスを取り入れた活動・タスクを取り入れることが必要だと考えられている。しかしながら、第二言語習得研究を反映した TBLT の教科書は、英語教育でも日本語教育でもまだ出版されておらず、理論からの提案にとどまっている(小柳 2004)。また、実践報告や研究も SL 環境の高等教育レベルで行われたものが多く、教師中心の伝統的な教室活動が行われている中華圏での実践報告や研究はきわめて少ない(Carless2007)。しかし、日本語が教室外で使われていない FL 環境であるからこそ、タスクを通して学習者も日本語をより身近なものとして捉えることができ、興味を持って日本語を学習できるのではないかと考えられる。

しかしながら、多くの日本語教師がそうであるように、学校の一教員として働いている場合、与えられた教材で授業を行わねばならない。そして、その与えられた教材が文型積み上げ型の教科書や文型練習をふんだんに盛り込んだ教科書ということも多い。そのような場合、日本語教師は与えられた教材内で自分の理想の教授法を模索しなければならず、大きな葛藤が生まれることもある。筆者も同じように文型積み上げ型の教科書を使っており、自身の言語教育観との乖離に少なからず葛藤を感じている。そこで、中華圏の FL 環境の学習者に筆者が考える最も適し

た教授法である TBLT を地域化し、実践することにした。TBLT と文型積み上げ型という両極端の考えであるが、いかに TBLT を地域化し、文型積み上げ型の教材を使うカリキュラム内で実践したかを次節で報告する。

## 5 実践の概要

### 5.1 クラスについて

報告するクラスは香港日本語学校(仮名)の日本語入門コース2クラスである。社会人のためのクラスで、学習者の年齢も職業もさまざまである。クラス A は日曜日の午後クラスということもあり、学校や会社の休日を利用して日本語を勉強する学習者が多く、クラス B は平日の夜に開講されているクラスということで、学校・会社帰りの学習者が多かった。学習者の数はどちらも 20 人を超えている。













以下は学習者の概要である。

|       | クラス A                        | クラス B                              |
|-------|------------------------------|------------------------------------|
| 回数・時間 | 毎週日曜日 5 時間<br>24 回 合計 120 時間 | 毎週月曜日と水曜日 3 時間ずつ<br>40 回 合計 120 時間 |
| 人数    | 20 人 (男女比 男9:女11)            | 26 人(男女比 男4:女22)                   |
| 年齢    | 13 歳から 37 歳                  | 19 歳から 56 歳                        |

これらのクラスでは合計 120 時間で『みんなの日本語初級本冊』の第1課から第21 課までを勉強する。TBLT では、学習者のニーズ調査やタスクの談話分析などを通してニーズ分析を行う必要があるのだが、本クラスでは予め決められている教科書で、その中に出てくる学習項目を教えなければならなかった。しかし、前述したとおり、与えられた教材で教えなければならないのは多くの日本語教師が同様だと思う。今回はカリキュラム内での実践ということで、TBLT の実践方法に忠実に従うのではなく、所与のカリキュラムに TBLT を適合、つまり地域化していった。

### 5.2 授業の進め方

授業での大まかな流れを以下の表にまとめた。『みんなの日本語初級本冊』の第 14 課 「(て形)＋ください」を学習項目とし、「タクシーに乗って道案内をする」という達成タスクを設定した。授業では、教科書のほかに補助教材として「みんなの日本語会話 DVD」と筆者が作成したタスクシートを使用している。

| 活動   | 学習活動の内容   | 言語習得プロセス                             |   |   |   |   |   |  |  |       |
|--|---|--------------------------------------|---|---|---|---|---|--|--|-------|
| 単語   | 各課の最初のページにある新出語彙を確認する。  | インプット                                |   |   |   |   |   |  |  |       |
| 単語   | <p>タスクに必要な単語を取り出す。学習者はその単語と絵をマッチさせる。</p> <div data-bbox="312 417 937 1093" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>タスクシートの例</b></p> <p>Please match the words with the pictures.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. まっすぐ <sup>い</sup> 行きます。( )</li> <li>2. 右 <sup>みぎ</sup> へ曲がります。( )</li> <li>3. 左 <sup>ひだり</sup> へ曲がります。( )</li> <li>4. 止 <sup>と</sup> めます。( )</li> </ol> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">A</td> <td style="width: 50%;">B</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div> | A                                    | B |  |  | C | D |  |  | インプット |
| A  | B   |                                      |   |   |   |   |   |  |  |       |
|   |    |                                      |   |   |   |   |   |  |  |       |
| C  | D   |                                      |   |   |   |   |   |  |  |       |
|  |   |                                      |   |   |   |   |   |  |  |       |
| プレタスク<br>ロールプレ<br>イ  | <p>学習者をペアにし、お客とタクシーの運転手の役になり、行き先を伝えるロールプレイを行う。</p> <div data-bbox="312 1232 967 1754" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>ロールプレイの例</b></p> <p>A) あなたはタクシーにいます。<br/>タクシーでホテルへ帰りたいです。</p> <p>Explain the direction to タクシーの運転手(Taxi driver):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Turn right</li> <li>▪ Go straight</li> <li>▪ Turn left</li> <li>▪ Stop here</li> </ul> <p>B) あなたはタクシーの運転手です。<br/>Respond to your お客(Customer) and take to the place s/he requests.</p> </div>  | アウトプット<br>(今までに学んだ項目を使い、自分のできる範囲で使う) |   |   |   |   |   |  |  |       |

| <p>会話</p>                               | <p>『みんなの日本語初級本冊』の会話(資料1)のDVDをみせ、学習者は会話の中でどのように言葉を使っているか考える。</p> <p>会話を見せた後、学習者が行ったロールプレイとどこが違ったか尋ねる。</p>   | <p>インプット<br/>気づき</p>        |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
|---|--|-----------------------------|----|----------|---------|-----------|----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|----------|---------|-----|----|-----------|----------|-----------|----------|-----------------------------|
| <p>ディクテーション</p>                         | <p>学習項目の「～てください」を抜き出したプリントを配り、もう一度会話を見せ、学習者にディクテーションをさせる。</p> <p>ディクテーションをさせた後、今までの「ます形」と何が違うのか確認する。</p>   | <p>インプット<br/>気づき<br/>理解</p> |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| <p>て形の<br/>explicit<br/>explanation</p> | <p>「て形」の作り方を確認する。ここでは教師が提示するのではなく、資料をもとに学習者がルールを発見するタスクを用いる。</p> <p>プリントにグループI, グループII, グループIIIに分けた動詞をみせ、それぞれのルールを考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>タスクシートの例</b></p> <p><b>IIグループ</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">ます形</th> <th style="width: 50%;">て形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ね<br/>寝ます</td> <td>ね<br/>寝て</td> </tr> <tr> <td>た<br/>食べます</td> <td>た<br/>食べて</td> </tr> <tr> <td>おし<br/>教えます</td> <td>おし<br/>教えて</td> </tr> <tr> <td>はじ<br/>始めます</td> <td>はじ<br/>始めて</td> </tr> <tr> <td>つか<br/>疲れます</td> <td>つか<br/>疲れて</td> </tr> <tr> <td>み<br/>見ます</td> <td>み<br/>見て</td> </tr> <tr> <td>います</td> <td>いて</td> </tr> <tr> <td>お<br/>起きます</td> <td>お<br/>起きて</td> </tr> <tr> <td>か<br/>借ります</td> <td>か<br/>借りて</td> </tr> </tbody> </table> <p>Think about the rules of IIグループ and how to make て形.</p> </div> | ます形                         | て形 | ね<br>寝ます | ね<br>寝て | た<br>食べます | た<br>食べて | おし<br>教えます | おし<br>教えて | はじ<br>始めます | はじ<br>始めて | つか<br>疲れます | つか<br>疲れて | み<br>見ます | み<br>見て | います | いて | お<br>起きます | お<br>起きて | か<br>借ります | か<br>借りて | <p>インプット<br/>気づき<br/>理解</p> |
| ます形                                     | て形   |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| ね<br>寝ます                                | ね<br>寝て  |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| た<br>食べます                               | た<br>食べて   |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| おし<br>教えます                              | おし<br>教えて  |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| はじ<br>始めます                              | はじ<br>始めて  |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| つか<br>疲れます                              | つか<br>疲れて  |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| み<br>見ます                                | み<br>見て  |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| います                                     | いて   |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| お<br>起きます                               | お<br>起きて   |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |
| か<br>借ります                               | か<br>借りて   |                             |    |          |         |           |          |            |           |            |           |            |           |          |         |     |    |           |          |           |          |                             |



|              | <p><b>Iグループ</b></p> <table border="1" data-bbox="330 276 920 821"> <thead> <tr> <th>ます形</th> <th>て形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>か<br/>書きます</td> <td>か<br/>書いて</td> </tr> <tr> <td>およ<br/>泳ぎます</td> <td>およ<br/>泳いで</td> </tr> <tr> <td>し<br/>死にます</td> <td>し<br/>死んで</td> </tr> <tr> <td>の<br/>飲みます</td> <td>の<br/>飲んで</td> </tr> <tr> <td>あそ<br/>遊びます</td> <td>あそ<br/>遊んで</td> </tr> <tr> <td>か<br/>買います</td> <td>か<br/>買って</td> </tr> <tr> <td>ま<br/>待ちます</td> <td>ま<br/>待って</td> </tr> <tr> <td>と<br/>撮ります</td> <td>と<br/>撮って</td> </tr> <tr> <td>い<br/>行きます</td> <td>い<br/>行って</td> </tr> </tbody> </table> <p>Think about the rules of I グループ and how to make て形</p> <p>Rule 1( ) →いて</p> <p>Rule 2( ) →いで</p> <p>Rule 3( ・ ・ )→ って</p> <p>Rule 4( ・ )→んで</p> <p>Rule 5( )→行って</p> <p><b>IIIグループ</b></p> <table border="1" data-bbox="330 1251 920 1400"> <thead> <tr> <th>ます形</th> <th>て形</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>します</td> <td>して</td> </tr> <tr> <td>きます</td> <td>きて</td> </tr> </tbody> </table> <p>タスクシートを使用しながら、教師は明示的の説明を与える。</p> | ます形                            | て形 | か<br>書きます | か<br>書いて | およ<br>泳ぎます | およ<br>泳いで | し<br>死にます | し<br>死んで | の<br>飲みます | の<br>飲んで | あそ<br>遊びます | あそ<br>遊んで | か<br>買います | か<br>買って | ま<br>待ちます | ま<br>待って | と<br>撮ります | と<br>撮って | い<br>行きます | い<br>行って | ます形 | て形 | します | して | きます | きて |  |
|--------------|---|--------------------------------|----|-----------|----------|------------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|------------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|----------|-----|----|-----|----|-----|----|--|
| ます形          | て形  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| か<br>書きます    | か<br>書いて  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| およ<br>泳ぎます   | およ<br>泳いで   |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| し<br>死にます    | し<br>死んで  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| の<br>飲みます    | の<br>飲んで  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| あそ<br>遊びます   | あそ<br>遊んで   |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| か<br>買います    | か<br>買って  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| ま<br>待ちます    | ま<br>待って  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| と<br>撮ります    | と<br>撮って  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| い<br>行きます    | い<br>行って  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| ます形          | て形  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| します          | して  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| きます          | きて  |                                |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| <p>て形の練習</p> | <p>ペアにそれぞれのカードに動詞1個が書かれたカードセットを配り、一つずつ「て形」に変えていくアクティビティーを行う。</p>  | <p>理解<br/>インテイク</p>            |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |
| <p>タスク①</p>  | <p>ペアの片方に指示を書いたプリントを渡し、ペアの相手に言われた通りに行動するように伝える。学習者は「ます形」で書かれている指示を「て形」に変えて指示を行わなければならない。</p>  | <p>理解<br/>アウトプット<br/>インテイク</p> |    |           |          |            |           |           |          |           |          |            |           |           |          |           |          |           |          |           |          |     |    |     |    |     |    |  |

|                        |   |                         |
|------------------------|---|-------------------------|
|                        | <p style="text-align: center;">ねが<br/>10のお願い</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <small>にほんご はな</small><br/>日本語を話します</li> <li>2. <small>でんわばんごう おし</small><br/>電話番号を教えます</li> <li>3. <small>きょうかしよ</small><br/>教科書をみせます</li> <li>4. タバコをすいます (Gesture)</li> <li>5. <small>た</small><br/>ごはんを食べます (Gesture)</li> <li>6. <small>あ</small><br/>ドアを開けます</li> <li>7. <small>し</small><br/>ドアを閉めます</li> <li>8. <small>でんき け</small><br/>電気を消します</li> <li>9. <small>でんき</small><br/>電気をつけます</li> <li>10. <small>せんせい はな</small><br/>先生と話します</li> </ol> <p>先生のところまで来た学生に、同じようなタスクシートを学習者に渡し、役割を交代するよう伝える。</p> |                         |
| <p>タスク②<br/>ロールプレイ</p> | <p>ペアでもう一度お客とタクシー運転手の役になり、地図を使い、指定された場所まで行くタスクを行う。タクシー運転手役の学習者は指を地図の上におき、お客役の学習者は道案内をし、所定の場所まで辿りつく。</p>   | <p>アウトプット<br/>インテイク</p> |
| <p>タスク③<br/>ロールプレイ</p> | <p>最終的なタスクとして、ペアになり一人が道に迷った人、もう一人が道を教える人の役になり、道案内を行う。このタスクでは、「右へ曲がってください。まっすぐ行ってください」と短文で伝えるのではなく、「それから」を用い、一度に道案内を伝えるタスクを行う。</p>   | <p>アウトプット<br/>統合</p>    |

プレタスクとして最初にロールプレイを行うのは、今まで学習してきた文法で会話し、自分の日本語の知識の限界に気づかせるためである。「て形」をまだ学んでいないため、学習者は「ます形」を使ったり(例「まっすぐ行きます。それから右へ曲がります。」「ます形」と「～をください」を使ったりして指示を与えているケースもあった(例「まっすぐ行きますをください。」)。その後、すぐにDVDの会話をみせ、会話で使われている文型に気づかせる。また、そのほかに気づきを促すタスクとしてディクテーションも取り入れている。こうして注意するポイントを示すことで、会話を聞いただけでは気づくことができなかった学習者も注目すべき箇所に気づくことができる。

また、実際のタスクに移る前に、タスクを通して学習者に考えさせながら「て形」の明示的説明を行っている。つまり、タスクの中で、いろいろな動詞の活用を提示し、学習者に考えさせながら、教師は明示的説明をしている。第二言語習得研究の観点から TBLT を提言している Ortega が日本の英語の授業で行った研究によると、タスクの前に文

法の明示的説明を受けた学習者のグループが受けなかったグループよりも文法的に正確な発話を生み出し、タスク内でも効果的に使っていることがわかった (Mochizuki & Ortega 2008)。さらに、同調査によると時間をおいても、明示的説明を受けた場合、一度習得すればなかなか忘れることがないと分かった。このことから、FL 環境においては、暗示的説明よりも明示的説明が効果的なことが示唆されている。

その後、簡単な動詞の活用練習をペアで行い、タスク①では、ペアとのコミュニケーションのなかで、実際に「(て形) + ください」を使って指示するタスクを取り込んでいる。ドリル練習に近いタイプのタスクではあるが、ペアとコミュニケーションをとることで、実際のコミュニケーション場面に近い練習が自然に行える。そして、タスク②では、これまで学んだことをふまえ、最初に行ったロールプレイに戻る。このことで、この課で学んだ文型を応用し、コミュニケーションの中で使う練習が行える。最後のタスク③は、タスク②からの応用で、統合するためのタスクとして位置づけられている。また、タスク②、③のときには学習者からこのような場合はどう言うのかという質問も多く発せられる。その場合、「3つめの信号を右へ曲がってください」など学習者から問われた表現も導入した。その後、学習者はタスクの中で積極的にその表現を使い練習していた。

このタクシーに乗るといふタスクのほかにも、家族について話す(第15課)、日本人観光客に MTR(地下鉄)での乗り継ぎ方を伝える(第16課)、日本で病院へ行く(第17課)、日系企業で面接を受ける(第18課)、夏休みの旅行の予定について話す(第19課)、クラスメート・クラスについて意見を言う(第21課)などのタスクを同様の方法で行った。

## 6 学習者の声

以下は授業後の学習者のコメントを日本語に訳したものである。

- パートナーとの練習が学習にとっていいと思いました
- 発話する機会が多いので、簡単に学べて理解しやすいと思いました
- Authentic な活動が多いので、日本へ行ったときに役立つと思いました
- 会話するのが楽しかったです。いつも会話するので、言葉を楽に覚えられました
- フィードバックをお互いのできるのでペアアクティビティがよかったです
- Authentic な活動で、語彙や文型を学んでいくのがよかったです

学習者の意見を見ると、Authentic なタスクを通して、語彙や文型を学び、日本へ行ったときに役立てられると考えているのが分かる。また、お互いにフィードバックを与えながら練習できるので効果的だと思っている学習者も多かった。

## 7 終わりに

本稿では、SL環境で主に使われている TBLT を中華圏である香港に地域化した実践を報告した。今回の実践では、教師中心の教育を受けてきたであろう学習者が TBLT という学習者中心の教授法に対して問題なく取り組んでいることが伺われた。また、TBLT を使うことで、より身近に日本語を使えるようになったという達成感を感じていたようである。しかしながら、まだ今回はまだ試験的な実践であったため、今後も改善が必要である。まず1つ目に、タスクの選択に改善の余地がある。前述したとおり、『みんなの日本語初級本冊』は日本での日本語教育を念頭に置いているため、日本で生活していくために必要な会話が選択されていることが多い。そのため、本稿で報告した会話から入る TBLT では限界がある。また、1課ごとの新出文型が多く、中にはタスクを中心に置いて練習するのが難しい文型もある。今後、さらに文型とタスクを吟味し、不自然ではないタスクを形成していかなければならない。2つ目に、導入会話が少ない。前述のとおり、本稿の TBLT では会話から入ることに重きを置いている。しかし、教科書の会話だけでは学ぶことができないトピックも多々あり、現在は筆者が自作した会話を用いて導入しているのが現状である。今後、その会話を映像化、音声化していく必要があると考える。また、研究課題として第二言語習得研究から本稿の TBLT が香港の学習者に与える効果を実証的に見ていく必要もある。

今回の報告では、『みんなの日本語初級本冊』を用いた TBLT の報告を行った。本来の TBLT の理想へと近づけるためには、その反対にある文型積み上げ型の教材を使い実践することは多少の無理がある。そのため、PPP と今回報告した TBLT を地域化した実践との違いが充分には明確になっていないかもしれない。しかし、多くの日本語教師がそうであるように、あくまでもカリキュラムに沿う範囲内で実践しなければならないという難しさがあった。

第二言語習得の研究者は、TBLT はメソッドではなくアプローチだと述べている (Richards & Rogers 2003)。メソッドでは決められた方法があり、その通りに教師は行う必要があるが、アプローチでは概念に沿っていれば、世界中でその地域に適した方法で応用することが可能なのである。これからの日本語教育においては、一つのスタンダードを定めていくのではなく、その地域の教師や学習者によって、その地域に適した方法で応用していくことが求められているのではないだろうか。そのためには、教師一人一人が日々情報を収集、共有し、共に学んでいかなければならない。

## 参考文献

国際交流基金(2008)『海外の日本語教育の現状—日本語教育機関調査・2006年』

(<http://www.jpff.go.jp/j/japanese/survey/result/dl/gaiyo2006.pdf>)

小柳かおる(1998)「条件文習得におけるインストラクションの効果」『第二言語としての日本語の習得研究』2号、1-26

小柳かおる(2004)『日本語教師のための新しい言語習得理論』スリーエーネットワーク

小山悟(2008)「プロフィエンス重視の教材開発—トピック・ベースのシラバス・デザイン」鎌田修・嶋田和子・追田久美子編『プロフィエンスを育てる—真の日本語能力をめざして』凡人社 184-207

瀬尾 匡輝: Task-Based Language Teaching (TBLT) を用いた地域化の試み  
—香港での実践—

- 佐久間勝彦 (2006) 「海外に学ぶ日本語教育—日本語学習の多様性—」 国立国語研究所編『日本語教育の新たな文脈—学習環境, 接触場面, コミュニケーションの多様性—』アルク 33-65
- スリーエーネットワーク(1998)『みんなの日本語初級本冊』
- スリーエーネットワーク(2000)『みんなの日本語初級教え方の手引き』
- 向日葵出版社(2009)『みんなの日本語初級香港版』
- 山口敏幸(2003)「香港における正規学校教育以外の日本語教育活動の概況」日本語教育学会編『海外における日本語教育活動の概況—現職者研修活動および学校外活動を中心に—』27-29  
(<http://www.soc.nii.ac.jp/nkg/database/2002chosa/02chosa-04f.pdf>)
- Canagarajah, S. (2005). *Reclaiming the local in language policy and practice*. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Carless, D. (2007). The suitability of task-based approaches for secondary schools: Perspectives from Hong Kong. *System*, 35, 595-608.
- Edge, J. (2006). *(Re)locating TESOL in an age of empire*. London: Palgrave
- Gass, S. M. & Selinker, L. (2001). *Second language acquisition: An introductory course*. 2nd ed. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.
- Kumaravadivelu, B. (2005) *Understanding language teaching: From method to post-method*. Mahwah, NJ: Erlbaum.
- Kumaravadivelu, B. (2006a). Dangerous liaison: Globalization, empire and TESOL. In J. Edge (ed.) *(Re)locating TESOL in an age of empire* (pp.1-27). London: Palgrave.
- Kumaravadivelu, B. (2006b). TESOL methods: Changing tracks, challenging trends. *TESOL Quarterly*, 40(1), 59-81.
- Lin, A. & Luke, A. (2006). Postcolonial approaches to TESOL. Special volume of *Critical Inquiry in Language Studies*, 3, 65-200.
- Long, M. (1985). A role for instruction in second language acquisition: Task-based language teaching. In K. Hyttenstam & M. Pienemann (Eds.), *Modeling and assessing second language acquisition* (pp. 77-99). Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- Mochizuki, N. & Ortega, L. (2008). Balancing communication and grammar in beginning-level foreign language classrooms. *Language Teaching Research*, 12(1), 11-37
- Ramanathan, V. (2006). The vernacularization of English: Crossing global currents to redress west-based TESOL. *Critical Inquiry in Language Studies*, 3, 131-146.
- Richards, J. C. & Rodgers, T. S. (2003). *Approaches and methods in language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Sullivan, P. (2000). Playfulness as mediation in communicative language teaching in a Vietnamese classroom. In J. P. Lantolf (Ed.), *Sociocultural theory and second language learning* (pp. 115-131). Oxford University Press.
- Tomlinson, B. (1998). *Material Development in Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.

Van Pattern, B. (1990). Attending to form and content in the input: An experiment in consciousness. *Studies in Second Language Acquisition*, 12, 287-301.

資料1 会話(『みんなの日本語初級I』、第14課より)

|                                      |
|--------------------------------------|
| 梅田まで行ってください                          |
| カリナ: 梅田まで お願いします。                    |
| 運転手: はい。                             |
| _____                                |
| カリナ: すみません。あの信号を <u>右へ曲がってください</u> 。 |
| 運転手: 右ですね。                           |
| _____                                |
| 運転手: まっすぐですか。                        |
| カリナ: ええ、まっすぐ <u>行ってください</u> 。        |
| _____                                |
| カリナ: あの花屋の前で <u>止めてください</u> 。        |
| 運転手: はい。1,800円です。                    |
| カリナ: これをお願いします。                      |
| 運転手: 3,200のお釣りです。ありがとうございました。        |

注 下線部分をディクテーションとして抜き出した。